



日本国道元標
街道の起点であることを表すもの。本物は道路上にあるが、複製が橋の北岸の西側にある。

魚河岸碑
日本橋川沿いには、幕府や江戸市中で消費される魚を荷揚げする魚河岸があり、鮮魚を満載した船が数多く集まる活気に満ち溢れた場所だったという。現在は、日本橋北岸東側に当時を偲ぶ碑が立つ。

日本橋





鐘撞き堂跡

時刻を江戸市民に知らせていた鐘。徳川家康とともに江戸に来た辻源七が鐘つき役に任命され、代々その役を務めた。すぐ脇には、夜半亭と呼ばれる庵があり、若き日の与謝蕪村もここに居住していたという。





昌平橋

寛永年間(1624~1644)の架設といわれている。この橋は、一口(いもあらい)橋(芋洗橋)、相生橋などの名で呼ばれていたが、聖堂建立ののち、魯の昌平郷の名を取って昌平橋と改められた。

筋違見附跡木札

昌平橋の下流五十メートルの付近に、当時は見附橋という橋が架かっており、将軍の寛永寺墓参の道として利用された。





神田明神
江戸の総鎮守。神田明神の歴史は古く、天平2年(730)の創建といわれる。江戸三代祭りといわれる神田祭でも有名。平将門を祭神の一つとしていることから、神田明神を崇敬する者は、将門討伐に深い関係のある成田山新勝寺へは参拝してはならないといわれている。





東大赤門

文政10年(1827)に第11代将軍徳川家斉の娘
溶姫が、前田家に嫁いたときに建立された朱塗
りの門。





地図 航空写真



地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



地図 航空写真

大円寺

国指定史跡である、幕末の砲術家高島秋帆(たかしましゅうはん)の墓や、明治時代の小説家青藤緑雨(さいとうりょう)の墓がある。
また、ほうろく地蔵の寺としても知られている。
ほうろく地蔵は、お七火事を起こした罪で火炙りの刑にされたお七の罪業を救うために、熱された焙烙(ほうろく)を自ら被り苦しみを受けた地蔵だといわれている。

地図データ © 2016 Google, ZENRAN - 利用規約



地図 航空写真

2丁目

千石一丁目

千石

千石駅前

本駒込二丁目

1丁目

都営三田線

186山通り

東洋大前

地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



100m
200ft



真性寺

真性寺
巢鴨の真性寺には、江戸六地藏の第四番である銅造地藏菩薩坐像がある。正徳4年(1714)頃に建てられたという2.68mの高さの像だ。江戸六地藏は各街道第一の宿に置かれ街道の守護をしたとされている。

地図 航空写真





庚申塚
この庚申塚は、明暦3年(1657)の江戸の大火後に造られた。付近は、中山道板橋宿へ至る前の立場であったという。れた

高岩寺
正徳3年(1713)、小石川の田付又四郎の妻が産後の容態が悪く、いろいろな手当も効果がなかった。そこで、日頃信仰している地藏尊を熱心に祈願したところ、ある日、黒衣の僧侶が枕元に立ち、「私の像を川に流しなさい」と告げ、「印像を与える」といった。目覚めると、枕元に地藏尊を刻んだ小さな木片があり、これで一万体の御影を作り川に流したところ、妻の病気は回復し健康になったという。この話を聞いた西順という僧が、その御影を是非頂戴したいというので、田付氏は、これを2枚与えた。
ある時、西順と親交のある毛利家の女中が誤って針を呑み込んでしまったため、この地藏尊の御影を飲ませたところ、御影を貰った針が吐き出されたという。この御影の霊験がとげぬき地藏尊の由来といわれている。き地藏



地図 航空写真



100 m
200 ft

©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



地図 航空写真



100 m
200 ft

©2013 Google, ZENRIN 利用規約



遍照寺

江戸時代は、区内唯一の天台宗寺院だったが、明治4年に廃寺となった。昭和22年に真言宗寺院として復活し、現在は成田山新勝寺の末寺となっている。境内は、宿場時代の馬つなぎ場で、幕府公用の伝馬に使う囲馬、公文書伝達用の立馬、普通継立馬などがつながれていた。

観明寺

境内の稲荷神社は、加賀藩下屋敷内に祀られていた三稲荷のうちの一社で、明治になって遷されたもの。また、参道入口にある庚申塔は、寛文元年(1661)に造られたもので、青面金剛像が彫られたものとしては、都内最古のもので、区の指定有形文化財になっている。



板橋

板橋という地名は、鎌倉時代にはその名が記されている、板橋という地名の由来になった橋。
江戸時代には太鼓状の木製の橋であったが、昭和7年には、自動車の普及に対応するために早くもコンクリートの橋に架け替えられたが、その名は現在では、区の名前にも採用されている。
名の由来になった橋で、江戸時代は太鼓状の木製の橋



縁切榎

男女の悪縁を切りたい時や断酒を願う時に、この榎の樹皮を削ぎとって煎じ、ひそかに飲ませるとその願いが成就するとされた神木。皇女和宮降嫁の際には、榎を避けるための迂回路が作られた上、榎を薦(こも)で覆ったといわれている。





本蓮沼

蓮沼町

大原町

泉町

宮本町

清水町





志村の一里塚
榎木が生えて対で残って一里塚が対(ついで)残っている場所は数が少ないのだが、この一里塚は、榎が生える完全な形で対で残されており、国の史跡にも指定されている。いる



地図 航空写真





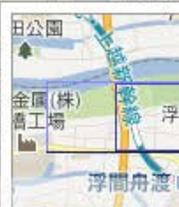


荒川

江戸時代には、戸田川と呼ばれ、橋は架けられず、船で川を越えた。現在は、東京都と埼玉県の県境を成している。



100m
200ft 伊藤忠





100 m





地図 航空写真



地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約





蕨本陣跡

岡田加兵衛の本一の本陣と呼ばれた岡田加兵衛の本陣。向かいには岡田五郎兵衛の本陣があり、この2つが蕨宿の本陣であった。蕨本陣跡として公開されているのは加兵衛家の本陣である。ここには、老中水野忠邦や松平加賀守、皇女和宮などが宿泊した。陣

歴史民俗資料館

中山道蕨宿の昔を伝える資料が多数所蔵されている。当時の宿場風景や、旅籠・商家・本陣上段の間などを再現した展示や、町並みを復元した模型などもある。

歴史民俗資料館分館

蕨市歴史民族史料館の分館。建物は、明治時代に織物の買継商をしていた家を、そのまま利用したものである。

蕨宿江戸方木戸跡

蕨宿の江戸側の入口に当たる場所。石造りの碑と、木戸をかたどった門がある。

地図 航空写真

©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



蕨宿上方木戸跡
浦和宿側の出蕨宿の、浦和宿側の出口。

法人二健 飯野医院

蕨宿町郵便局

5丁目

3丁目

北町四丁目

北町一丁目

2丁目

1丁目

大日本印刷 (株)蕨工場

100m

200ft

地図データ ©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



辻の一里塚跡

日本橋から数えて5番目の一里塚。現在は碑が残るのみである。隣に、弁財天が祀られている。

宝蔵寺

日蓮宗の寺院



辻熊野神社
日蓮宗の寺院。おくまんさまといわれ、辻の鎮守として地域の人々から信仰を集めている。



焼米坂

江戸時代、新名物やき米の看板を掲げ、中山道を通る旅人に炒った米を売る茶店が数件あり、この焼米坂の名が定着した。また、江戸時代には旅人にとっては難所であったという。



三菱自動車(株) 二丁目店

三菱自動車(株) 二丁目店

本田屋ビル(有)

アルボレダ 武蔵浦和1

浦和めぐみ 100円ショップ

200円





地図 航空写真

5丁目

岸町

神明

2丁目

1丁目

2丁目

MAYFAIRHILLS



©2013 Google, ZENRIN - 利用規約



調神社
調(つき)とは、租・庸・調の調で、伊勢神宮へ納める貢物の初穂を納めた倉庫群の中に鎮座していたと伝わっている。鳥居の無い神社として有名で、狛犬ではなく兎が置かれているのも特徴的である。



慈恵稲荷神社
マンション群の間にひっそりと建つ神社。参道に、二七の市場の跡碑が残されている。

1丁目



笹岡稲荷神社
日本橋から6里目の一里塚があった場浦和橋の袂にある神社。近くには、日本橋から6里目の一里塚があった。浦和橋右折して右折。





廓信寺
鎌倉期の木造阿弥陀如来坐像が安置されている。
また、サツマイモの女王といわれた紅赤発祥の地の碑がある。幼稚園の先を左折。

3丁目

1丁目

3丁目



地図 航空写真

針ヶ谷

4丁目

2丁目

1丁目

2丁目



100 m
200 ft



地図データ ©2015 Google, ZENRIN, 利用規約



与野半里塚のケヤキ
与野駅前に立ち尽くす大ケヤキ。半里塚と呼ばれていた。